

第1章 災害対応上の海からのアプローチの必要性

防災先進国日本、海洋国家日本としての視点から、これまでの陸上アプローチを主体とした防災から海からのアプローチも含めた効果的な防災施策を検討することが必要。

第2章 災害対応上の海からのアプローチに期待される機能と現状

1. 海からのアプローチに関する防災計画の現状

・国の「防災基本計画」や地方自治体の「地域防災計画」において、船舶の活用や海からのアプローチについては、限定的な記述に留まっているケースが多い。

2. 過去の災害対応における海からのアプローチ

・過去の災害事例における海からのアプローチは、国の計画等で想定されている救助、消火、輸送、船舶交通の規制のほか、阪神・淡路大震災以降被災者支援も実施されているが、主体が輸送、捜索・救助、飲食物支援、入浴支援となっており、医療活動に関しては、これまで対処されてきた実績がない。

3. 陸、海、空からのアプローチの特徴

・海からのアプローチは、移動範囲、行動距離、輸送能力、多目的利用可能空間の確保等に特徴がある。

4. 海からのアプローチに期待される機能と現状

・期待される機能は、輸送機能、捜索・救助機能、医療機能、消火機能、被災者等支援機能、航路・港湾障害排除機能、指揮機能の7つに整理。その結果、医療機能の一層の充実が必要と判明。
・陸・海・空それぞれの特性を踏まえ、互いに連携し、相互に補完しあうことにより、全体としてより高い水準の災害対応力を発揮することが重要。
・海からのアプローチを防災対策上の一手段として位置付ける場合、各機関・各手段との連携について、訓練実施や情報通信手段の共通化等の検討が必要。

第3章 災害時多目的船を含む海からのアプローチの実施上の課題

1. 災害対応上の課題

(1) 災害対応上の全機能共通の課題

・海上からのアプローチの有効性・実効性を高めるためには、陸・空からのアプローチとの連携が重要。
・連携強化のためには、情報の共有も含めた運営の制度検討と共に事前準備・計画策定、教育・訓練、母港選定が必要。

(2) 災害対応上の機能別の課題

・隻数、船体能力、要員・機能の検討及び災害対応以外の活用方策とのバランスを考慮し、災害対応への確実性を確保しておくことが必要。
・医療機能を発揮するため、医療スタッフ確保、対象医療フェーズの検討、陸上医療との連携、制度上の課題の克服、医療資機材・医薬品の整備が必要。これらの課題を解決するには、普段からの関係機関相互の連携、対象フェーズの明確化、医療活動体制の整備、障害となっている制度の見直し、事前の準備が重要。

2. 災害対応以外の課題(平時の活用策)

・災害時多目的船を保有するために、災害時だけでなく、平時における有効な活用策を考えておくことが必要。
・平時の活用方策例としては、離島・遠隔地等への巡回支援、国内外での防災意識の啓発教育、海外における災害対応や国際貢献、実験・研究等が想定される。

第4章 今後に向けて

1. 検討会の結論

- ◆いつ発生してもおかしくない大規模災害に対応するため、海からのアプローチのあり方について残された課題を検討し、具体化に向けた活動を続けていくことが重要。
- ◆予想される大規模・広域災害に万全を期すため、海からのアプローチにおける医療機能の強化を模索していくべき。
- ◆海からのアプローチの様々な選択肢の検討に際して、防災先進国としての国際貢献といった観点も含めた幅広い視点からの平時の活用策を想定すべき。

2. 検討会後の活動に向けて

- ◆海からのアプローチの改善・見直しを実現するためには、実現できる具体的な目標設定を行った上で早急に検討を深めていくことが必須。
- ◆現在計画されている対策に加えて、海からのアプローチをいかに盛り込むかについて、具体的なケースを上げてその課題を検証していくことが必要。
- ◆現在行われている政府の科学的な検討内容を引き続き注視し、新たな海からのアプローチについて、間断なく検討を行い、具体化を急ぐ必要がある。